

# 2010年度

# 胸部画像精度管理研究会報告



複十字病院副院長

(結核予防会 胸部検診対策委員会 精度管理部会長) 尾形 英雄

## はじめに

PACS(医療用画像管理システム)の急速な普及を背景にして、予防会の胸部間接・直接撮影フィルムの精度管理を担ってきたフィルム評価会を、2009年からはモニター画像の精度管理も含めた胸部画像精度管理研究会に衣替えして第2回目になった。この間にも新たにPACSを導入した支部や、胸部デジタル画像のフィルムだしを止めモニター診断に切り替える支部が更に増加してきていた。その一方で、胸部健診車のミラーカメラを完全にCR(デジタル撮影システム)に置き換えることは経営的に難しいためか、間接撮影フィルムによる胸部健診を大半の支部(43支部中40)が続けている。これまでの間接・直接撮影フィルムの精度管理を継続しながら、モニター画像とその読影の新たな精度管理方法を模索している当研究会の現況を報告する。

10日の二日間にわたって結核研究所の4階講堂に全国38支部から医師・放射線技師60名以上が集結して開催された。フィルム画像の撮影条件に関するアドバイザーとしてフィルムメーカーの専門家を、モニター画像に関する疑問に答えてもらうためモニター・PACSのメーカーの技術者を招いたので、事務局を含めると総勢90人ほどの参加者であった。医師・放射線技師を6班に分けて、各班にシャーカステンを用意して初日午前中にアナログ直接撮影フィルム91枚の評価、午後からデジタル画像フィルム130枚(うち6枚データのみ)の評価を行った。デジタル画像フィルムを見ると、該当するデジタル元データのある58例(32支部)についてはメーカーの用意したモニター画面(ソフトコピー)で同時表示してそのフィルム画像(ハードコピー)と見比べられるようにした。二日目の午前は間接フィルム112巻についてのフィルム評価を実施した。間接撮影フィルムについては「胸部間接撮影フィルムの評価基準」に、直接撮影フィルムとデジタル画像フィルムについては「胸部直接フィルムの評価基準」のマニユ

## 研究会の概要

2010年度胸部画像精度管理研究会は、2010年12月9日・

図1 間接撮影フィルム評価結果の年次推移

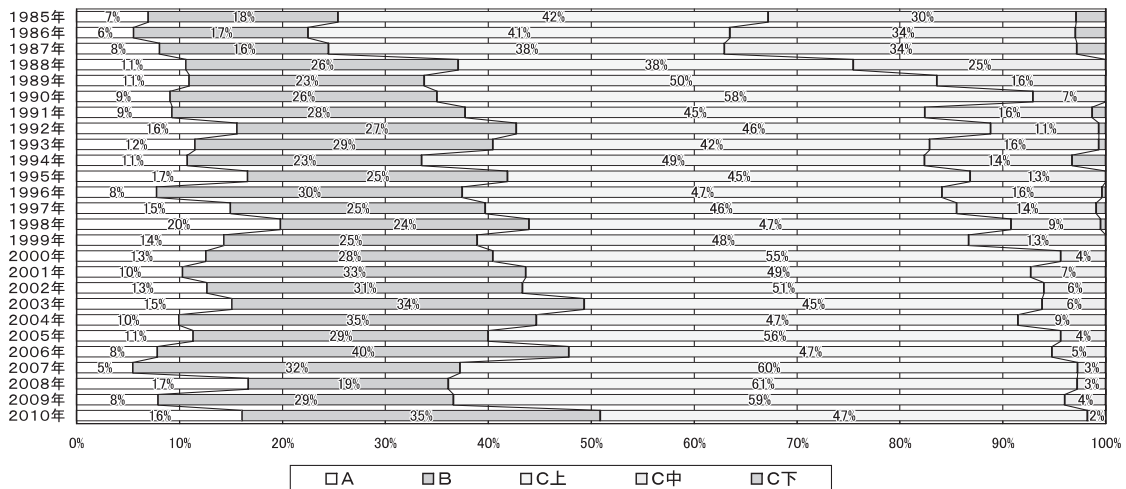


図2 直接撮影フィルム評価結果の年次推移

